

盛岡視覚支援学校

研究テーマ

「視覚障がい教育の専門性に基づく指導の充実」 (1年研究)

1 全校研究

(1) 研究目的

職員一人一人が、研修が必要だと考える視覚障がい教育の専門性について共同で学びあい、授業実践を通して日々の授業に生かすことにより、各々の専門性を高め、授業力の向上を図る。また、研究会を通して視覚障がい教育の専門性の共有化を図る。

(2) 研究内容・方法

視覚障がい教育の専門性向上のため、研修、研究が必要な分野ごとにグループを設定する。今年度も昨年度同様、7グループを立ち上げた。グループ内共通の課題をサブテーマとして設定し、毎月グループ研を行う。グループごとに研修会を計画、実施する。課題や課題解決に向け共通理解を図り、より効果的な手立てや改善案を話し合い、協議を行う。

(3) 研究実践

以下の7グループで研究を進めた。各グループの実践を以下にまとめる。

① 点字指導

各自が担当している児童生徒に対しての実践事例を持ち寄り、実態に応じた点字指導の在り方について検討した。

② 歩行指導

音声ガイドアプリを使用しての歩行指導研修会、「歩行基礎能力についての課題整理表」を活用しての事例検討を行った。

③ 触察の仕方に関する指導

教師自身が題材を触る経験を通して効果的な触り方を学び、指導する際のポイントを考えた。

④ ICTを活用した指導

音声でのネット検索において、情報まで効率的にたどり着く操作方法について検証した。

⑤ 弱視指導

拡大読書器の体験や事例研を通して、視覚補助具の活用と学習環境の整備についての考察を行った。

⑥ 理療科における指導

臨床実習に向けた側臥位のおん摩の術式を再検討し、学習教材としての動画を作成した。また、生徒に配布した動画を活用しながら、実技の研究授業および授業研究会を実施した。

⑦ 寄宿舎における指導

実態把握シートを用いることで、生徒の意見を反映させた個別のQOL計画が主体性にどのように影響するかを実践し協議を行った。

2 講演会（高教研講演会）

演 題：地域における視覚障害児の合意形成スキルの発達・支援—自己理解、障害開示、援助要請を中心に—

講 師：愛知教育大学 准教授 相羽 大輔氏
期 日：8月3日

参加者：44名（本校会場参加、オンライン参加）

3 校内研修

(1) 研修報告会

外部団体の研修会の内容を全職員で共有する場を2回設定した。

(2) 全校研究の各グループによる研修会の実施
(例 ブレイルメモ操作体験、拡大教科書使用の事例検討会、パソコンの音声入力について等)

4 他の教育研究機関との連携

(1) 北東北3県盲ネットワーク関連
(すべてオンラインによる)

① 寄宿舎指導員研修会（7月29日、青森）

② 理療科実技研修会（7月29日、青森）

③ 早期教育研修会（12月26日、秋田）

④ ロービジョン研修会（1月13日、本校主管）

(2) 全日本盲学校教育研究大会富山大会
(8月1日～30日 オンデマンド配信)
(8月22日 ライブ開催)

(3) 東北盲学校教育研究大会青森大会
東北・北海道理療科教育研究会青森大会
(11月10日・11日)
オンライン開催

5 刊行物

研究集録としては刊行しないが、CDにまとめ、閲覧できるようにする。